

その他の意見

柱の1「地球規模で考え、身近なところから実践する」について

- ・新エネルギーとしての太陽光発電の普及については、住宅新築時に導入しやすいと思われるので、建築業界との連携等も考えたらどうか。
- ・低公害車の導入について、最近ハイブリッド以外にもかなり燃費が向上している車があります。こうした車の導入も検討したらどうでしょうか。
- ・地球温暖化対策では、震災の影響で目標達成は大変なようであるが、消費電力マイナス10%に取り組み、地球温暖化に関心と理解をいただいています。
- ・生活路線バス維持対策事業については、現状維持、終結ではなく、高齢化社会の足の確保の視点から特に、採算面を脇に於いて、総合的な計画を検討することが望まれます。また、総合都市交通戦略策定事業を軸として、地球温暖化対策を指向する他の事業（クリーンエネルギー車普及促進事業、サイクルプロモーション（コミュニティサイクルやサイクルポート等による自転車利用促進）、モビリティ・マネジメント推進事業（過度な車利用から、公共交通機関、自転車、徒歩への転換促進）など）と共に、一元的に検討を行うことが望ましいと考えます。
- ・走行距離の少ない公用車にハイブリッド車を導入しても、CO₂削減効果はあまり期待できない。一方、乗車人数の少ない生活路線バスに、燃費が悪く排出ガスの汚い古い大型バスが多数用いられており、環境への負荷が大きいと思われる。最新の排出ガス規制に適合しかつ燃費の良い小型バスに代替すれば、バス業者の収益改善にもつながり、相乗効果が期待できる。新型低燃費小型バスの導入に対する補助を導入してはどうか。
- ・重油の硫黄分は、5,000～35,000 p p mレベルであり、ボイラーでの燃焼等によって生じる亜硫酸ガスは酸性雨の原因となり得る。これに対して、市販の自動車燃料中の硫黄分は1997年に500 p p m以下、2005年代後半からは10 p p m以下に規制されており、もはや酸性雨への寄与は小さいと考えられる。つまり、酸性雨対策としての「自動車交通対策」は大きな効果は期待できない。重油を使用するボイラーなどに適切な脱硫装置を用いるように指導するなど、より効果的な対策を検討すべき。さらに、重油ボイラーに替えて地中熱を用いた暖房・給湯システムを導入すれば、亜硫酸ガスの大幅低減に加え、CO₂の大幅削減も期待できる。
- ・自然・再生可能エネルギーの導入促進にあたっては、将来的には地域のエネルギーを総合的に管理するスマートグリッド、ひいてはスマートコミュニティの実現に向けた大局的な視点が必要と考えます。
- ・太陽光発電システムだけでなく、風力発電等を含めた新エネルギーの出力を新たな環境指標として検討したらよいと思われる。

柱の2「自然と共に生きる」について

- ・稲わらやもみがらの有効活用と畜産堆肥との交換の資源循環型の環境にやさしい農業をもっともっと推進していただきたい。使用済みプラスチックの回収処理は農家に浸透してきたと思われます。
- ・農業施設（ビニールハウス、ガラス温室、畜舎、鶏舎、農作物保管倉庫など）への再生可能エネルギーの適用を促進する技術開発や補助金制度などを検討すべき。特に、地中熱による畜舎の床暖房や鶏舎の冷房は、牛乳の生産性向上や鶏舎からの悪臭防止などにも寄与できると考えられる。
- ・野生生物の生育環境が広く放射性物質に汚染された現状においては、放射性物質の野生生物への影響調査を行わずに保護政策を論じることができないと考えます。郡山市が独自に放射能汚染が野生生物にどのように影響を及ぼしているかを調査し、そのデータを蓄積していくことが放射性物質による汚染を生じさせてしまった世代が負担すべき次世代への責任と考えます。
- ・市の鳥「カッコウ」について、他の野鳥に託卵し、その為に、広く自然度を推し量る貴重な存在であること、そして、「カッコウ」自体が低温体質であることにく託卵>する一因があることは、十分説明しておいても良いのではないかと。

柱の3「きれいな水を守る」について

- ・猪苗代湖や河川の水質保全のために、湖岸や河岸の清掃活動は必要ですし、流入河川の水質改善のために、下水道対策を早急に推進することを期待します。また、未来を担う子ども達にとって、家族でトンボ（ヤゴ）、魚、カエルなどとの接触ができるようなきれいな川や自然が身近にある環境を保ってほしいと思います。
- ・水源である猪苗代湖の水環境保全に向けて、さらに多くの市民が参加できる仕組みづくりができれば良いと思います。
- ・1人1日当たりの節水目標は知らない市民が多すぎます。何らかの対策をするべきです。
- ・他の柱に比べて柱の3の取組みにおいては、市民への啓発が弱いと思う。特に節水については市民一人ひとりが努力すべき事項であると思われる。

柱の4「すこやかで安らぎのある暮らしを創る」について

- ・新たな廃棄物処理場の検討を行ったらよいのではないかと。これまで市は廃棄物の適正処理、さらには減量化や資源の有効利用に努めてきたが、現在利用している処理場は今後数年で満杯と予想される。そこで、市域の立地条件等アセスメントを実施し、計画的な処分場候補地作業に取り組むことが必要と考えられる。特に、除染により排出される廃棄物処理場は早急に実施することが不可欠であると考えられる。
- ・近年の異常気象によるゲリラ豪雨等が増加している。下水道の雨水対策や浸水対策の強化が必要である。
- ・本市では、これからも都市型水害が発生することは十分考えられます。これらを踏まえて、浸水ハザードマップ事業が進められましたが、今後も並行して、水害対策事業及び浸水ハザードマップ作成事業の見直しを行うことが必要と考えます。また、せせらぎこみちの活用について、せせらぎこみちの効用はあまり知られていない。遊歩道を散策する人々のほか、一般市民向けにもPRすべきである。地下部には、雨水排水路や防火貯留水槽を設置して、都市防水用水の機能を持たせていることを説明しておくべきである。
- ・PM2.5の監視により力を入れてほしい。また、自動車交通により発生する振動や騒音の抑制には、右折レーンの設置、信号のタイミングの調整など、車の流れを妨げないような改良が必要である。これらはオキシダントの発生抑制にも効果的である。

柱の5「学び、考え、行動する」について

- ・緑に親しむ第一歩は樹木等の名前を知ることだと思う。公園の樹木や街路樹に名札をつける等は効果大である。名札のないところも多いので再整備したらいいと思う。
- ・地球温暖化防止のための「福島議定書」事業において、全小・中学校の参加があり、特に優秀団体として表彰されたこともあり、環境教育に対する意識が高まっていると考えます。
- ・高齢者人口が増えています。元気な高齢者を活用する事業をもっと展開してほしい。
- ・収穫の喜びを味わってほしいので、学校での米作りなどの食育を実施すれば、食の大切さや米の出来るまでがわかり、「ごはん」ばなれが少しは解消できるのではないかと。